

第18回千葉県資源評価検討会議 会議録

- 1 開催日時 令和5年8月8日（火） 午後1時30分～午後2時30分
- 2 開催場所 千葉県教育会館 本館5階会議室
- 3 出席者 <構成員>
東北大学大学院農学研究科 教授 片山 知史
県農林水産部水産局漁業資源課長 宮嶋 義行
県水産総合研究センター次長（企画調整室長事務取扱） 池上 直也
<その他>
県関係職員15名

4 検討事項

- (1) 資源評価基準について
- (2) 令和5年度資源評価対象種の選定について
- (3) 千葉県資源管理方針及び資源管理協定について
- (4) その他

5 検討事項の概要及び検討の結果

(1) 資源評価基準について

事務局から第1回千葉県資源評価検討会議において決定された資源評価基準は変更せず、従前の基準により評価を行う旨説明があり、構成員から意見はなかった。

(2) 令和5年度資源評価対象種の選定について

令和4年度に資源評価した35魚種について引き続き評価するとともに、今年度は、昨年度評価票（総合判断A）を作成しているキンメダイ等17魚種にサヨリを追加した18魚種の評価票を作成する案を事務局から説明した。

構成員及び出席者からの意見等は以下のとおり。

- ・構成員から、サヨリについて総合判断Aとなった理由について確認があり、担当者から評価に必要な情報等が蓄積されたこと及び調査事業に区切りがついたことが理由である旨の回答があった。
- ・構成員から、サヨリについて調査事業に区切りがついたとのことであるが、流れ藻分布等の調査は引き続き行うのか質問があり、担当者から続けていく旨の回答があった。構成員から重要な調査であるので今後も継続してほしい旨の意見があった。
- ・構成員から、タチウオの資源動向を見る上で漁業種類別漁獲量を把握する必要があるが、どのように調査するか質問があり、担当者から昨年度に引き続き情報収集で

きるよう努めて行く旨の回答があった。他の構成員からは現場に負担のかからない手法により情報を取れるよう対応してもらいたい旨の意見があった。

- ・構成員から、ホンビノスガイについて重要資源であるので、有効利用のための資源評価を引き続き行ってもらいたい旨の意見があった。

(3) 千葉県資源管理方針及び資源管理協定について

事務局から、千葉県資源管理方針及び資源管理協定の策定状況について説明を行った。構成員から意見はなかった。

(4) その他

- ・構成員から新しい資源管理が進む中、栽培漁業対象種の混入率等の調査体制についてどのように考えているか質問があり、担当者から精度が維持されるよう調査を実施していく旨の回答があった。構成員からはその調査結果を資源評価票の中でどのように表現できるかについて、今後の課題である旨の意見があった。

6 その他

事務局からTAC魚種拡大の検討状況及び次回の資源評価検討会議の予定について報告があった。